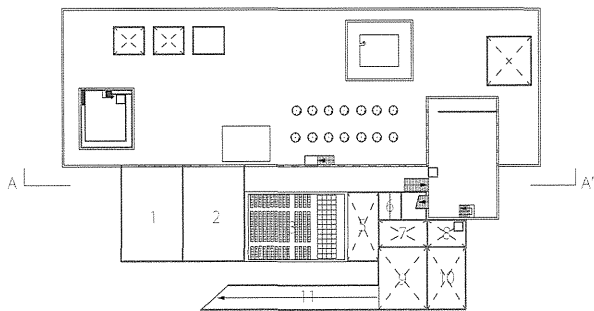
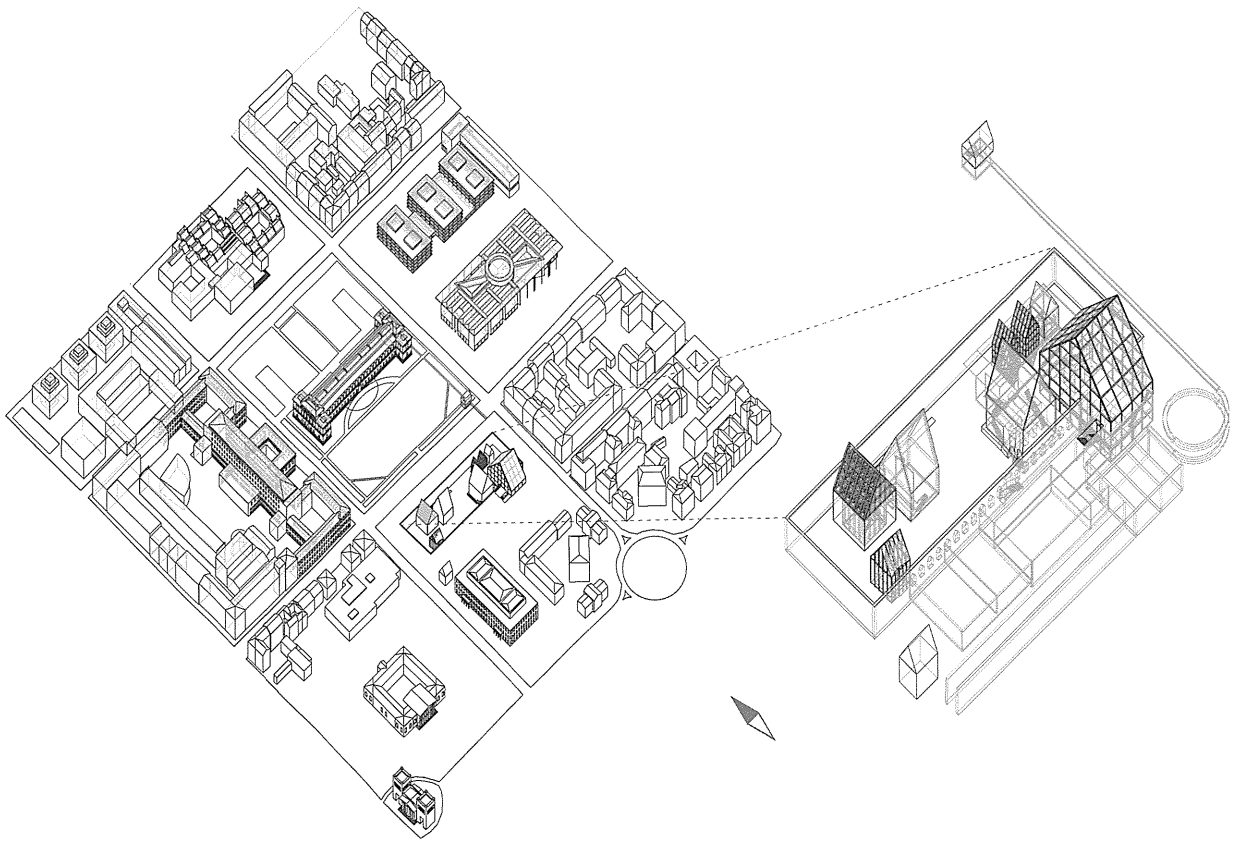
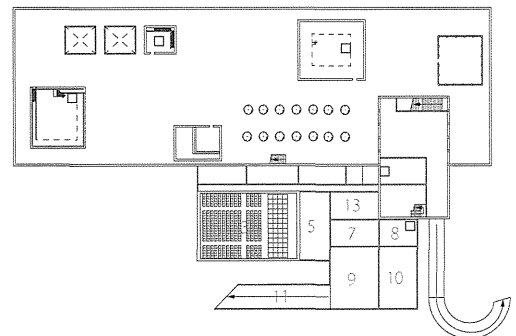


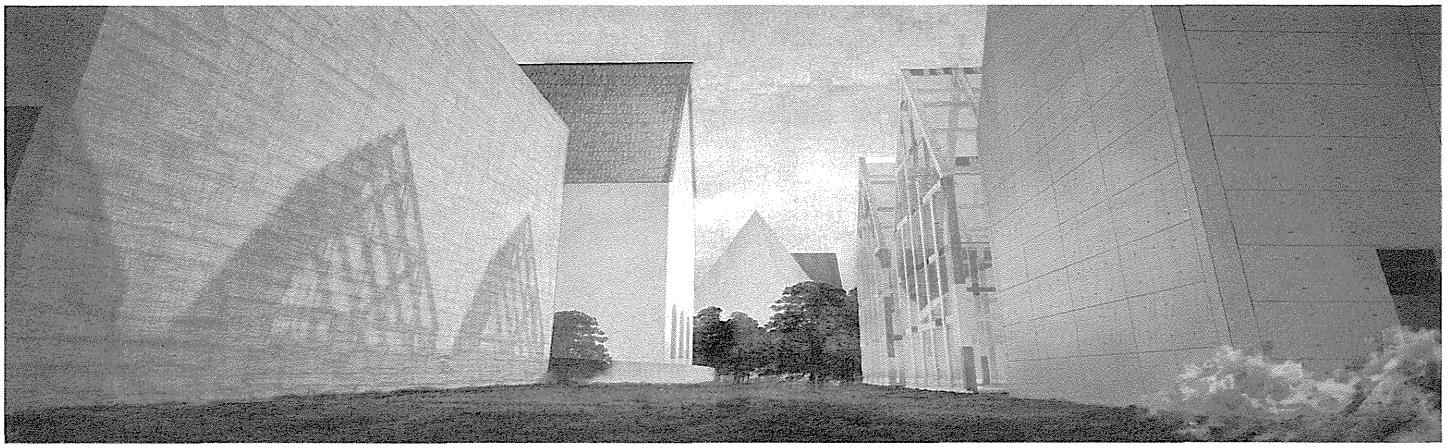
カスパー・ダーヴィト・フリードリヒのための美術館



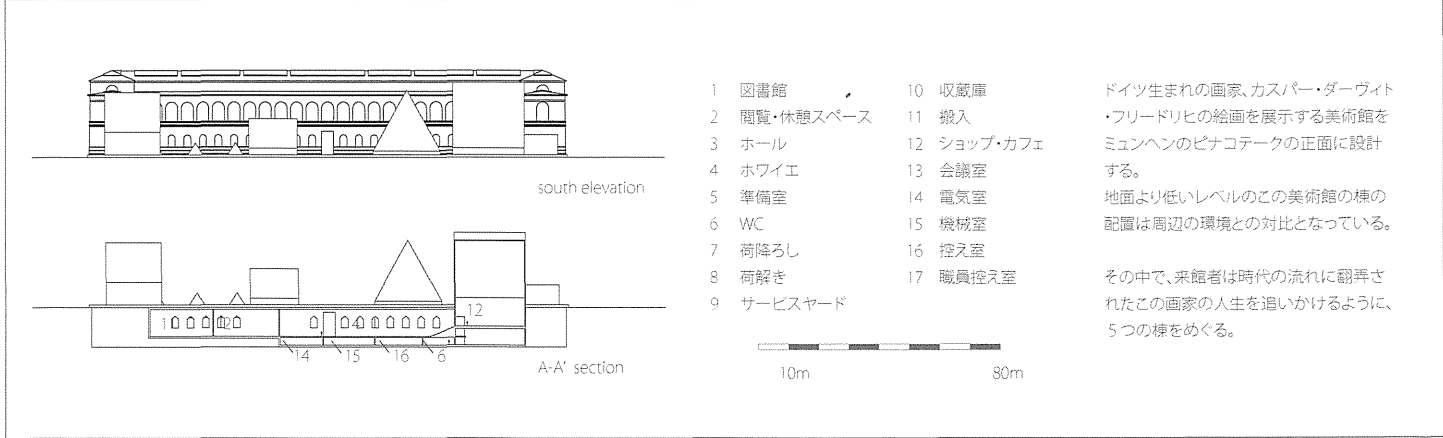
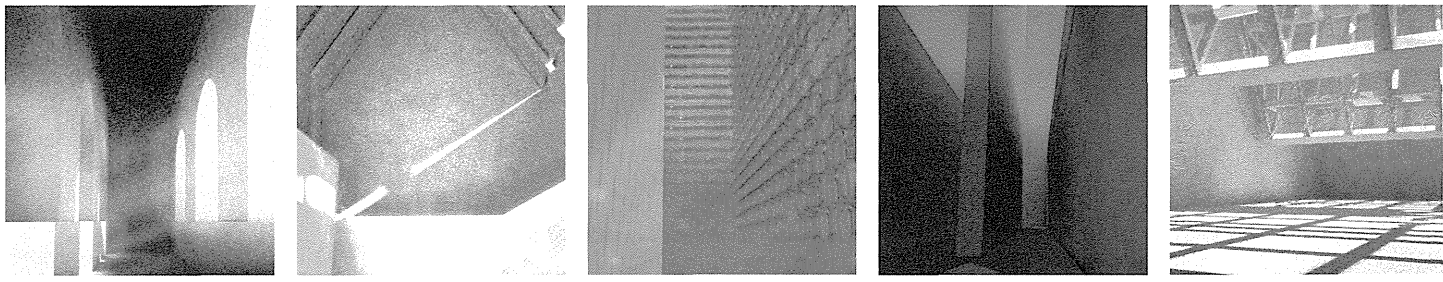
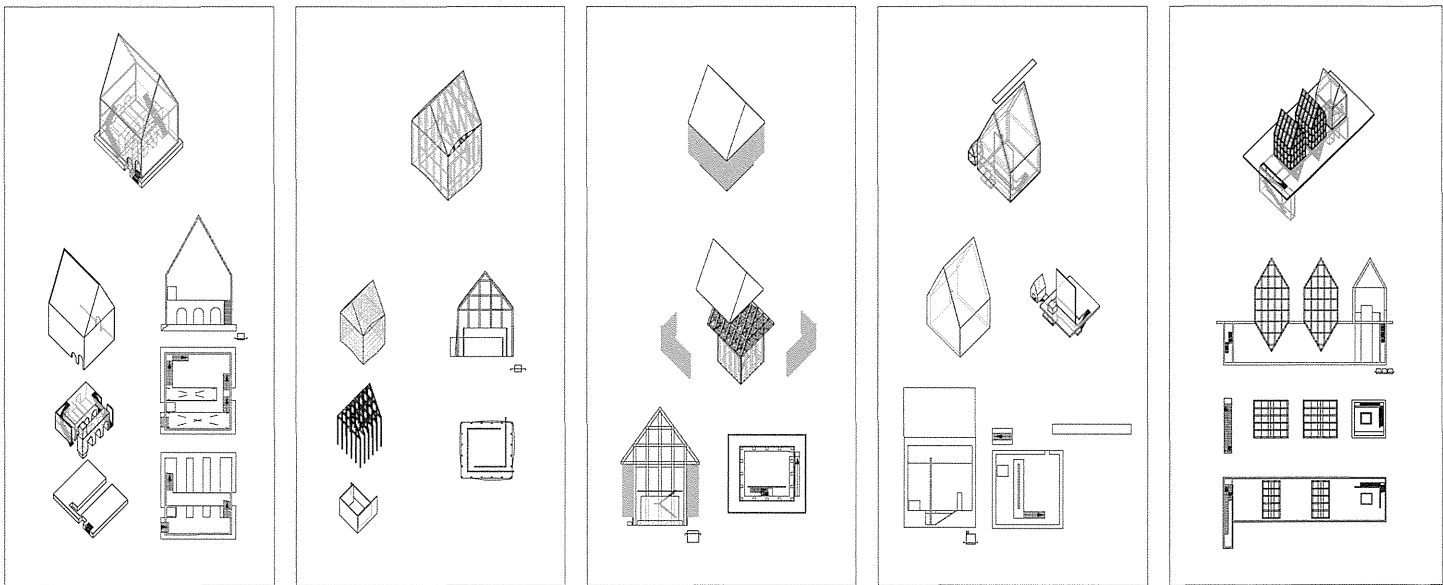
GL -8m plan ▲



GL -12m plan ▲



<p>生まれ故郷で、母と弟を亡くし、心を病みながら絵を描くことを始める。</p> <p>風景の雰囲気を通して観るものに働きかけるセピア画</p>	<p>芸術の街ドレスデンに移りそこで描いた絵画が認められ、未来に希望を感じる。</p> <p>幼少期の経験を引かずつた一見すると暗い画風の油彩画</p>	<p>結婚し、生活は明るくなるものの、反封建主義的な立ち位置をとっていたため批判にさらされる。</p> <p>明るさの中に悲しさ、むなしさのこもった絵画</p>	<p>政治的な失望により再び精神を病み、さらに、体調を崩したことで金銭的にも苦しくなる。</p> <p>小さな暗い色味の絵画</p>	<p>身体に麻痺が残り油彩画を諦めるものの親族友人のもとで息をひきとるまで残りの人生に希望を見出す</p> <p>セピア画の大作</p>
--------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------



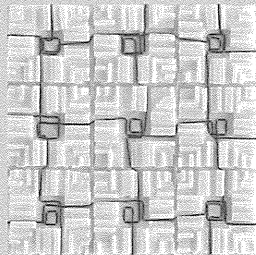
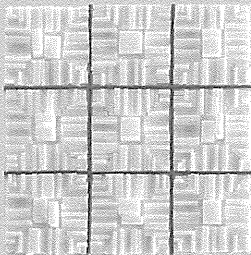


# URANIWA PARK PACOPACO

— アクティビティを纏う帯 —

## scale L : 京都の街区の成立のはなし

京都の街区は、碁盤の目状に作られた通りを中心にして成立してきました。昔は通りで集いが起こっていましたが、現在はモビリティの進化によって、通りは移動の場という性質が強くなっています。そこで、昔は奥庭があった、街区の奥をつなぐ新たなネットワークを考えます。



**現在の通りを中心にした街**  
通りには車が通り、スピードが速い。可家のミゼの間に面しているため、商業的な雰囲気。  
通りに面しては可家が並んでいるが、奥にマンションが建つ事例が多くみられる。

**街区の中心をつなぐ新しいネットワークを追加した街**  
あるく道が街区の中心をつなぐ。街区に囲むことで風や光の通り道にもなる。商業的な通りに対して、より生活感のある雰囲気になる。

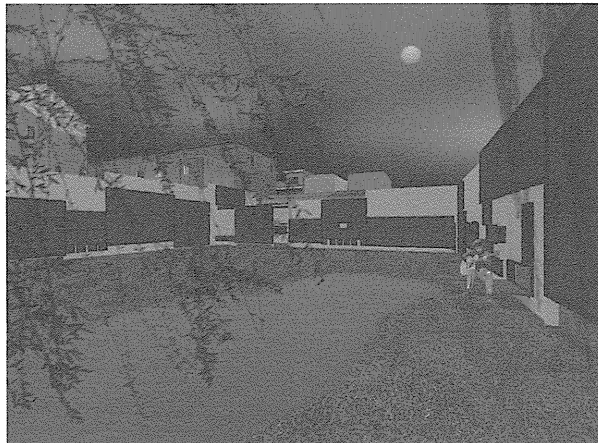
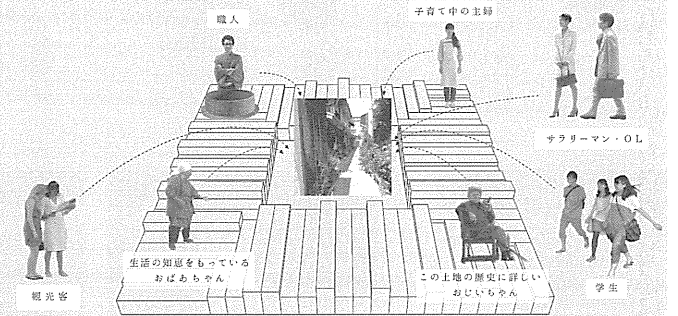
## scale M : 街区の中心のはなし

ソーシャル・コモン・キャピタル(社会関係資本)の共有



利用する人が運営する

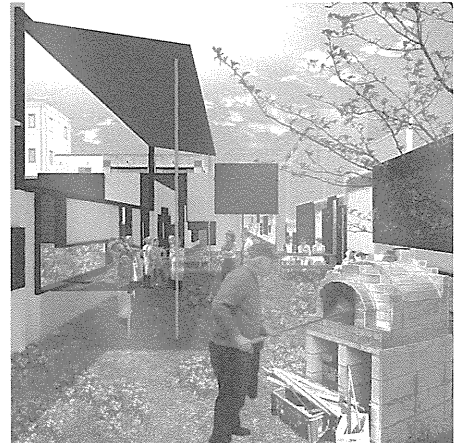
“URANIWA GOVERNANCE”



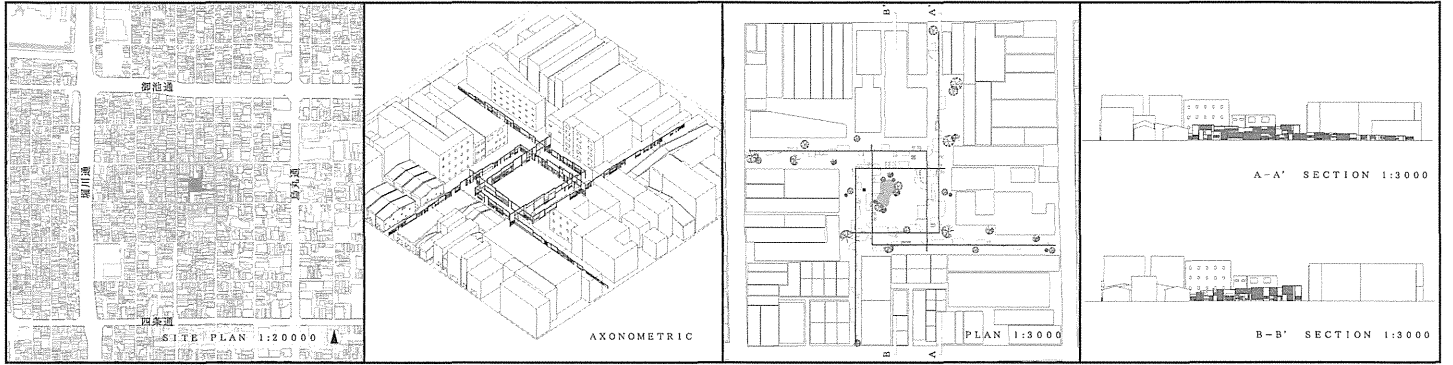
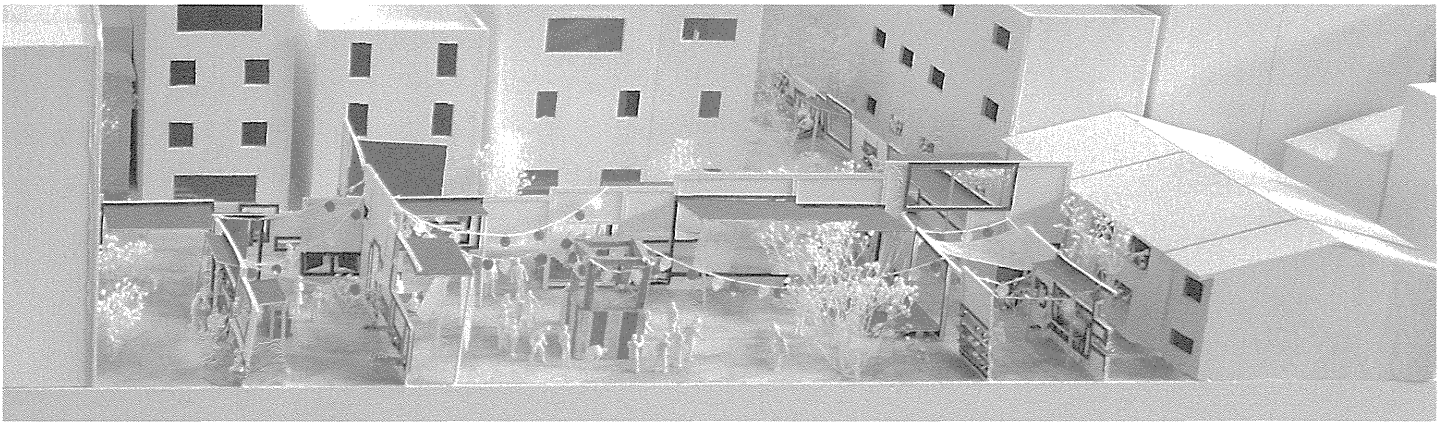
Case 1  
6月17日(水) 11:00 開口率15%  
池のほとりにベンチを出して座る人が1人



Case 2  
6月18日(水) 8:00 開口率20%  
井戸端会議をするお年寄りと夜行で京都に着いた観光客



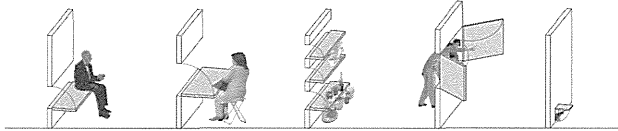
Case 3  
6月19日(木) 12:30 開口率40%  
窯を使って焼き出しをするお母さんたちとお昼休みのサラリーマン、OL



scale S : 帯のはなし

Small-scale

小さい動きに対応する



座る

肘をつく

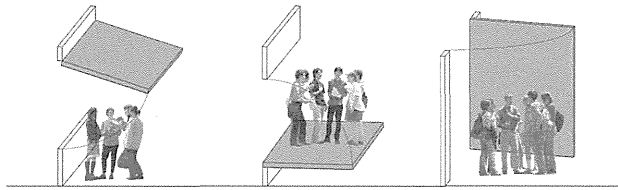
飾る

覗く

通る

Large-scale

大きな場を形成する

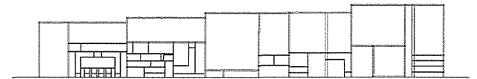


隙りをつくる

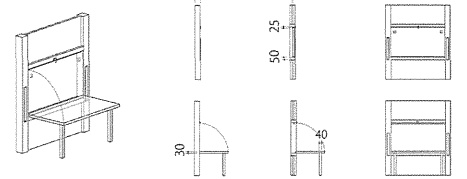
高みをつくる

仕切りをつくる

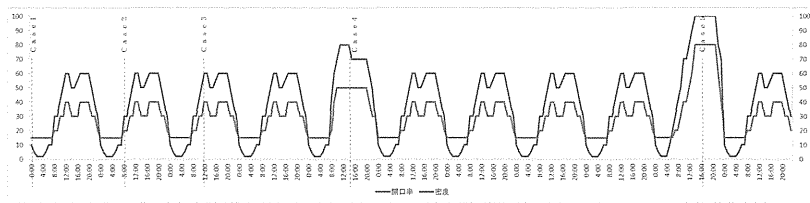
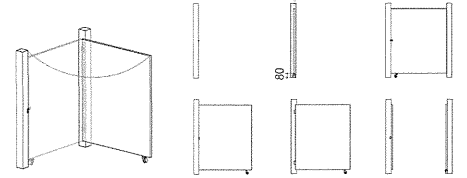
面を支え、額になる



鉛直方向の開閉



水平方向の開閉



人口密度と面の開口率の関係



Case 4  
5月22日(日) 15:00 開口率50%  
趣味でクラフトをしている人と、掘り出し物を探す人

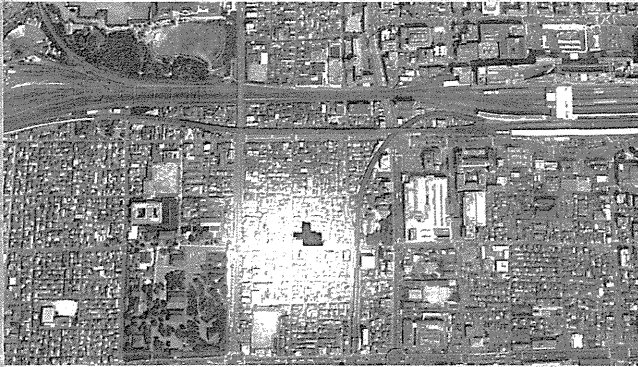


Case 5  
8月23日(土) 16:00 開口率80%  
こどもの成長を願うお祭り、地藏盆。一年で最も人が集まる日。

ゆきかぐれ

# 帰香具礼 ～東寺道界限再編計画～

生まれぬ家 捨てられた土地 消えゆく街の気 近年都市において増え続ける空洞に新たな価値を与える建築



## 敷地

京都市南区西九条針小路町、猪熊町、南小路町、唐橋町  
世界遺産東寺、JRや近鉄、市バスの好アクセス等の  
地域ポテンシャルの高さにも関わらず  
細街路には空き家が増え続け  
生活の広場であった路地は一転して危険な空間となっている

空き家数  
47戸

戸建て総数  
450戸



## 計画

木造密集地域の宿泊街化

其ノ巷、宿所

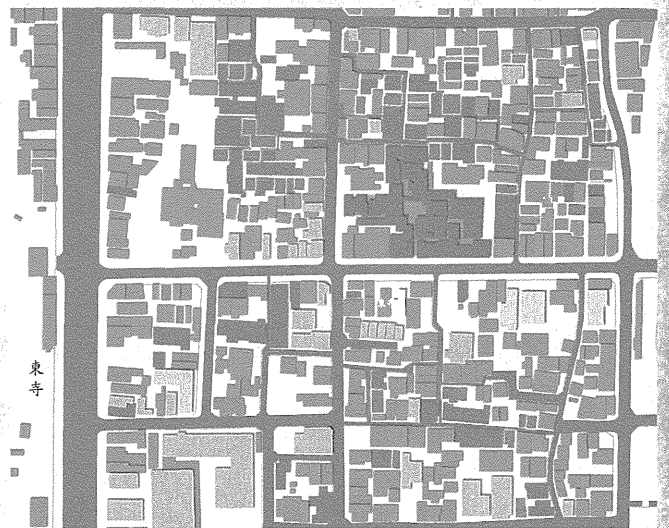
街区内に点在する空き家を再生し宿泊施設とする

其ノ式、観光拠点

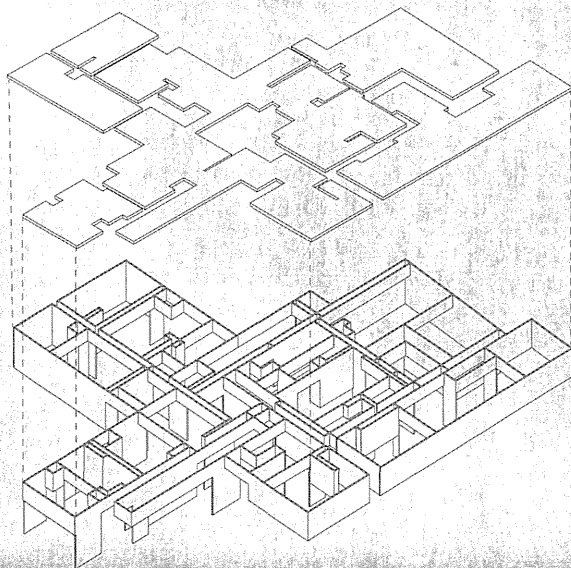
空き家再生、維持、管理および  
地域住民と観光客の交流の場としての拠点を設計する

観光拠点敷地は、計画対象四街区の中心  
京都駅、東寺から徒歩圏内という  
利便性の高い土地である

■観光拠点 ■空き家(宿所) ■木造平屋住宅



① 敷地図



## 垂れ壁

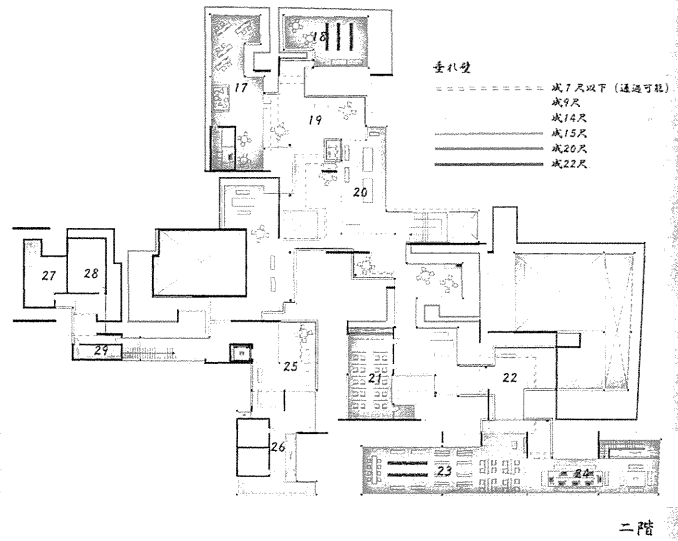
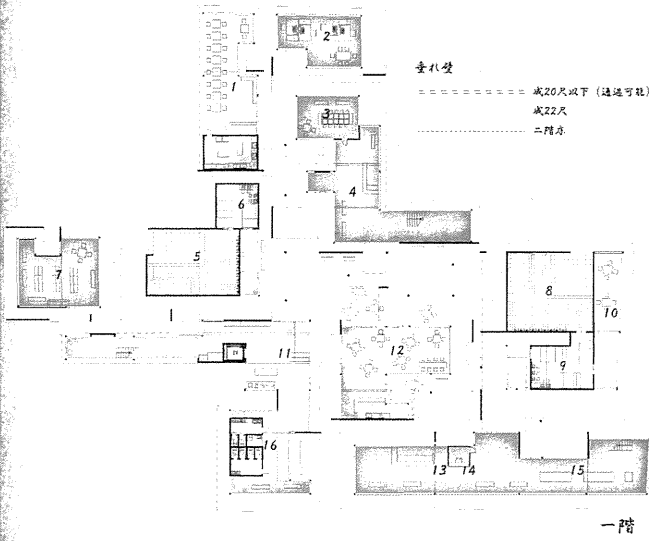
観光拠点敷地内に  
梁を路地状に配し 垂れ壁をめぐるす

八種の成をもつ垂れ壁が  
周辺環境と建築の界面を形作り  
ここに中間領域が形成される

屋外 半屋外 屋内  
可視 不可視

垂れ壁の成及び内壁からの距離の変化により  
多様な路地的空間を構成する

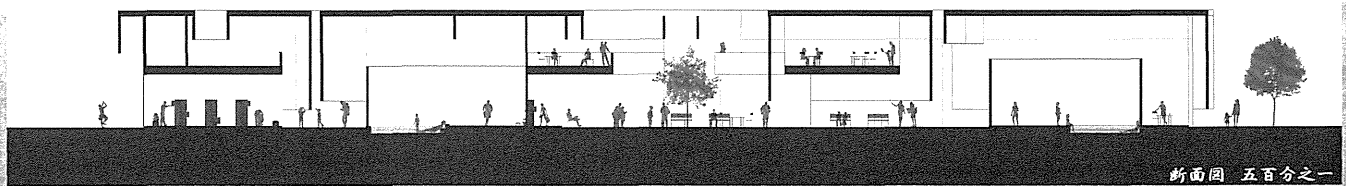
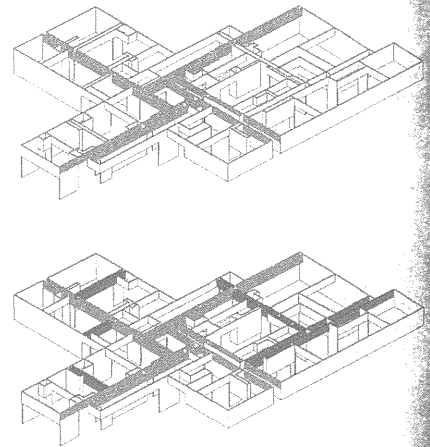
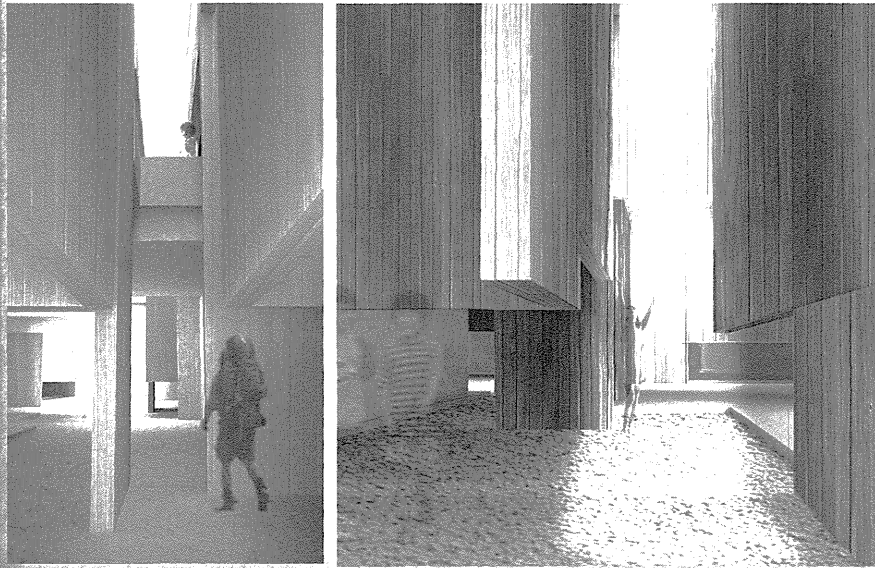
平面図



諸室

- |                 |          |          |              |
|-----------------|----------|----------|--------------|
| 1. レストラン        | 5. 大浴場 老 | 9. 脱衣所   | 13. 空き家宿泊者受付 |
| 2. 管理事務所        | 6. 脱衣所   | 10. 休憩室  | 14. 外貨両替所    |
| 3. コインランドリー     | 7. ロッカー室 | 11. ショップ | 15. 展示場      |
| 4. 案内カウンター・残債受付 | 8. 大浴場 若 | 12. カフェ  | 16. WC       |

- |             |                 |         |          |
|-------------|-----------------|---------|----------|
| 17. 託児所     | 21. 集会場         | 25. テラス | 29. ボンプ室 |
| 18. 子ども図書室  | 22. テラス         | 26. WC  |          |
| 19. テラス     | 23. 図書・雑誌閲覧室    | 27. 空室  |          |
| 20. 市民ギャラリー | 24. インターネットコーナー | 28. 機械室 |          |



## スタジオコースの作品から

2014

学部の4回生は毎年「スタジオコース」と呼ばれる設計演習課題に取り組むことになる。それぞれの担当教員が独自のテーマを設定し、学生はそのテーマに応じて、自らの望むコースを自由に選択する。いわば卒業設計の前哨戦だ。その中から、2014年度は3コース3名の作品を紹介する。

### 歴史と接続する建築

岸スタジオ

天野 直紀

都市と建築には、それぞれに光と闇を内包した歴史がある。われわれがこれから新たに構想する建築物は、そうした歴史にどのように対峙し、継承してゆくことができるだろうか。本課題では時代の奔流を生き抜こうとしている都市ミュンヘンの文化的地区の美術館計画の課題を通して、このことを問うてみたい。

### 都市と建築

門内スタジオ

竹内 萌

都市の中の建築は、他の人工物や人間・環境とのネットワークを形成する結節点として存在する。このスタジオでは、「都市と建築」のダイナミックな関係に焦点を結び、京都という都市をフィールドとして、ミクロな建築レベルの環境のデザインを通して、マクロな都市レベルの環境をデザインする可能性を探求する。具体的には、歴史都市・京都の都市空間に「魅力的な場所と風景を創発する新しいタイプの建築（の集合）」を提案する。

### 居住の場を再編する

田路スタジオ

浜辺 里美

<居住>は都市を都市たらしめる本質的な機能のひとつである。20世紀の近代都市では機能分化が進められ、ビジネスセンター、商業センターなど人が住まない地域が生み出される一方で、家だけが建ち並ぶ住宅街が形成されてきた。しかし高齢化人口減少時代に入り、空き家、空き室が増え、地域の活力が失われつつある。また、親子4人家族という標準的とされた家族のカタチも大きく多様化している。はたして2050年、人々はどのように暮らしているだろうか。居住のための「都市のカタチ」を提案してほしい。